普及センターだより

常陸太田地域農業改良普及センター
〒313-0013 常陸太田市山下町4119　TEL 0294-80-3340～2　FAX 0294-80-3348
高萩駐在　TEL 0293-22-3061　FAX 0293-24-0210

第65号

水田にあらわれたイノシシ

棚にぶら下がりブドウを食べるハクビシン（常陸太田市）

イノシシ・ハクビシンから農作物を守りましょう

管内ではイノシシとハクビシンによる被害が多く発生しています。特に、ここ数年、ハクビシンによる被害が目立つようになり、ブドウなどの果樹の他、食用ホオズキやハウス内のトマトやイチゴも被害にあっています。農作物を獣害から守るために必要な対策を実施しましょう。

防護柵を設置する

防護柵は、直接的に被害を減らす効果的な方法です。

イノシシには、ワイヤーメッシュや電気柵が効果的です。

ワイヤーメッシュの場合、目合いは一〇cm以下、掘り返しされないよう地面に埋めます。上部を外側に二〇～三〇度折り曲げると効果的です。電気柵の場合、通電線を地際から二〇cmの高さ（鼻の高さ）に張ることがポイントです。イノシシの場合、二〇cm間隔で二段設置します。

ハクビシンは、ネット柵や金網柵で防げないため、電気柵が唯一の侵入防止技術です。防草シートの利用などで下草による漏電の問題を解決し、地上五cmと十cmの二段に通電線を張ります。また、ネットと電気柵を組み合わせた複合柵が効果的です。

電気柵設置のポイント

- 対象となる野生鳥獣の鼻の高さに設置する。
- 漏電を防ぐため、こまめに除草する。
  ※地上5cmの通電線では防草シートを利用する。
- 舗装路は電気を通しにくいため舗装路から50cm以上離す。
- 4,000ボルト以上を目安に常時通電する。
  ※設置した日に必ず通電！
- 凸凹部や傾斜地では支柱をたくさん設置する。
- アースは地中深く差し込む。
- 安全に使用するため危険である旨を表示する。
- 電気柵用電源装置を使用する。
- 柵の破損は早急に補修する。

エサ場とねぐらを作らない

廃棄された農作物や収穫後の残渣などが野生鳥獣を呼び込む要因ともなっています。「不要なものは残さない！」を徹底します。

また、野生鳥獣にとって住みづらい環境をつくっていくことが必要です。遊休農地はイノシシの格好の隠れ家です。藪を刈払い、見通しを良くします。ハクビシンはエサ場の近くにねぐらを作ります。人気のない神社仏閣、公民館、空き家などはハクビシンの格好の隠れ場所です。見回りなどを行って、人の気配を感じさせるようにし、「安心できるねぐら」を作らないことが必要です。

農業用ハウスの災害被害防止対策について

近年、全国各地で台風や大雪等の自然災害が多発しており、パイプハウスをはじめ農業用施設にも大きな被害が発生しています。特に、昨年は、台風一五号・一九号による大規模災害が連続して発生し、県全体で農業用ハウスを中心に甚大な被害が発生しました。

このような状況を踏まえ、県では、**「茨城県農業用ハウス災害被害防止マニュアル」**を作成しました。生産者の皆様が、農業用ハウスの補強対策・保守管理等を行ったり、被害発生した場合に必要とされる事後対応をまとめましたので、是非ご活用ください（詳細は**県北農林事務所企画調整部門ＨＰ**をご覧下さい）。

ここでは、マニュアルに掲載されている、「台風（強風）が予想される場合の対策のポイント」について概要を下記にまとめました。今後の台風対策の参考として下さい。

／台風（強風）が予想される場合の対策のポイント／

台風接近前

☑天気予報等により、積極的に気象情報を収集する。

☑**事前の準備をしっかり行う。**下図及びマニュアルに掲載されている「台風被害を防止するためのチェックシート」を参照し、事前対策（飛来物等への対策、強風への対応、周辺の施設・機械の点検、潮風害への対応、戸締りなどの直前対策）を行う。

☑台風の進行方向の東側は、特に、風が強くなりやすいので注意する。

台風通過中

☑**台風通過中は、人命優先のため作業は絶対に行わないこと。**

台風通過後

☑作物の生育回復のため、潮風害対策、草勢回復、病害予防等の当面の対策を徹底する。

①送電線が切れて下垂していることがあるので、感電事故に注意する。

②側溝や水路が見えにくい場合もあるので転落に注意する。

③**台風通過後は施設を見回り、破損箇所があった場合は、被災を証明するための被害写真を撮影する。**補修やパイプの撤去をする際は、部材を外した時にパイプの跳ね返り等で怪我をすることがあるため注意し、できるだけ業者や経験者の応援を要請する。

④換気を図り、施設内が高温になるのを防止する。

⑤施設及び施設周辺の排水をすみやかに行う。

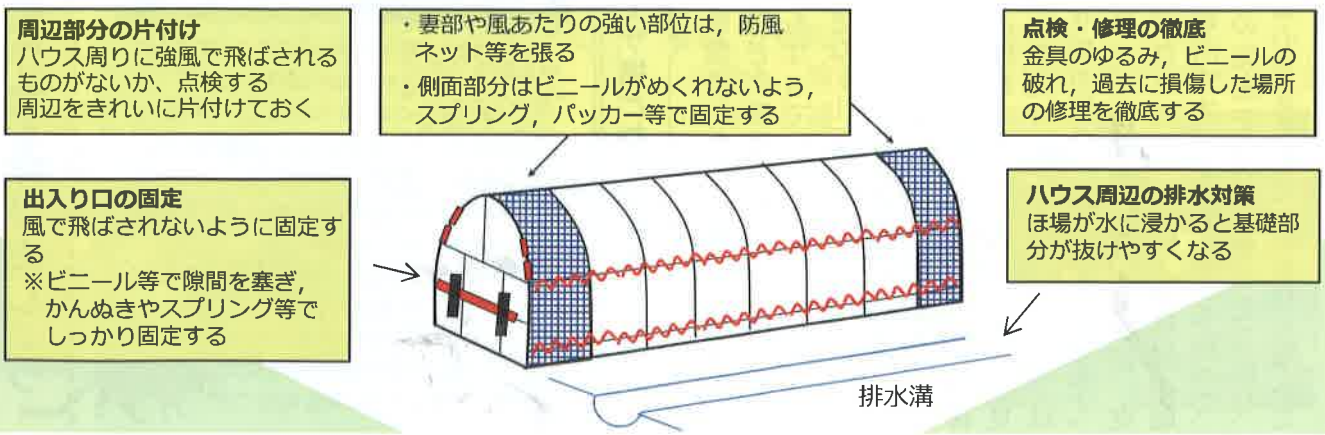
⑥作物に対する当面の対策

ア．作物への泥のはね上がりが多い場合には、動力噴霧機等で洗い流す。

イ．潮風を受けた場合には、台風通過後直ちに散水して茎葉に付着した塩分を洗い流す。温度が上がったり、日射が強くなると被害が大きくなるので、作業はなるべく早く行う。

ウ．傷口から病原菌が侵入しやすいので、天候を見計らって薬剤散布を行う。

エ．作物によっては速効性の窒素・カリを液肥や葉面散布で施用し、草勢の回復を図る。



イネ主要病害の防除

昨年、県北地域では主食用米に「いもち病」や「紋枯病」が多く発生し、減収や品質低下を招きました。前年に発生したほ場では、特に注意して防除するようにしましょう。

いもち病

◉特　徴

主な伝染源は、種もみや前年の被害わらです。また、補植用置き苗の放置も発生源となります。気温二〇～二五℃で、弱い雨などが続いてイネの葉が長時間ぬれるような条件のときに発生しやすくなります。

本病に感染すると葉に茶褐色の小さな円形の病斑が現れ、重症化すると中央部が灰色に壊死した病斑となります。穂首に感染すると薬剤の効果も低下するので、早めの防除が必要です。

◉対　策

・種子更新、種子消毒、苗箱消毒を必ず行いましょう。
・いもち病に登録のある育苗箱施用剤を使用しましょう。
・本田を見回り早期発見・早期防除に努めましょう。
・補植用の置き苗は早めに処分しましょう。

紋枯病の症状

紋枯病

◉特徴

紋枯病菌は土壌中で越冬し、代かき時に菌核が水面に浮きあがり、稲株に付着し感染します。高温、多湿、多肥栽培では発病しやすくなります。

本病に感染すると、茎に灰色楕円形の病斑が現れ、次第に下葉が枯れたようになります。米粒が小さくなり減収する他、茎が弱くなり倒伏しやすくなります。発生を繰り返さないためにも適期に防除を行いましょう。

◉対　策

・出穂十五日前を目安に薬剤防除を行いましょう。
・代かきにより前年の株や籾の残渣が浮き上がっているときは、ほ場の外に持ち出すようにしましょう。

新系統のネギハモグリバエに注意！

平成三〇年以降、県内でネギハモグリバエによる被害が多発しています。このネギハモグリバエは、従来のものと異なり、一枚の葉に一〇匹以上の幼虫が潜り込み、集中的に葉肉を食害するのが特徴です。被害が大きくなると、葉が白化したようになり、激発するとほ場全体が白く枯れ込みます（葉枯病等と誤認しないよう注意してください）。

食害痕のあるネギを袋に詰めて出荷すると、出荷先で蛹となって袋内に混入するため、クレームの対象となります。

空梅雨の年には発生量が多くなる傾向があります。また、激発してからの防除は困難となるので、早期発見と早期防除に努めてください。また、定植時や土寄せ時に粒剤を施用すると効果的です。

食害痕（病害虫防除部提供）

果樹の晩霜対策

近年、温暖化に伴い、果樹類の開花が前進化しており、春先に晩霜に遭遇する危険性が増えています。果樹栽培において、開花直前から果実肥大初期（幼果期）にあたる春先は低温による影響を受けやすいため、特に注意が必要です。

晩霜被害は、果実生産に深刻な被害を及ぼします。

表に示した対策は、複数組み合わせることで単独での使用よりも温度を保つ効果が高まります。冬の間に自分の園や経営に合った対策を検討しましょう。

果樹の主な晩霜害防止対策

対　策	内　容
燃焼法	果樹園内で火を燃やし、園内を温めて霜害を防止する方法。気温が０℃になったら点火し始める。
被覆法（多目的防災網の設置）	園内を被覆資材で覆うことで気温の低下を防ぐ方法。晩霜期前に被覆する。
送風法（防霜ファンの設置）	温度の高い層の空気を扇風機で吹き下ろして果樹園内の気温を上昇させる。
散水法	気温が氷点下に下がったときに、スプリンクラーにより散水することで、植物が氷結することを防ぐ。

令和二年度県表彰を受賞「すいふ・ひまわり工房」

常陸太田市水府地区で活動する「すいふ・ひまわり工房」は、二〇年前から地場産の野菜や果実など、旬の材料を活かした漬物等の加工をしています。

令和元年には、地域活性化を目指す地区の取り組みで開発した「柿の丸漬け」が茨城県農産加工品コンクールで最優秀の金賞を受賞しました。また、長年の活動の功績が評価され、功労団体として令和二年度茨城県表彰を受賞しました。

「すいふ・ひまわり工房」の加工品は、道の駅ひたちおおたや市内のＪＡ直売所等で購入できます。皆さんのこだわりと思いがたくさん詰まった逸品を是非ご賞味ください。

管内生産者が茨城県鉢物品評会にて上位入賞！

フラワーマイスターズＩＢＡＲＡＫＩ鉢物品評会（第四一回茨城県鉢物品評会）が、十一月二十日にジョイフル本田ニューポートひたちなか店にて行われ、シクラメンやポインセチアを中心に百十五点の鉢花が出品されました。

この品評会のシクラメンの部で、常陸太田市の大内広明さんが三位となり、品評会全体でも金賞六席（茨城県農林振興公社理事長賞）を受賞しました。

令和二年は、梅雨時の日照不足、夏秋の高温等シクラメンの栽培には厳しい気候となりましたが、花の色や茎葉とのバランス、ボリューム感が高く評価されるとともに、管内生産者の方々の技術レベルの高さが証明されました。

大内さんのシクラメン「ラビリンスピンク」

農業学園開催中

普及センターでは、概ね就農5年目までの新規就農者に対して、農業技術の習得や仲間づくりを支援する「農業学園」を実施しています。

今年度は、これまでに経営基礎講座、農薬適正使用講座、学園生のほ場見学を実施しました。受講生からは、「普段聞くことのできない経営の話を聞けて良かった」、「農薬の使用方法について専門の話を聞けて良かった」など好評を得ています。

1月には、農業者が農業技術の改良に工夫をしている日頃の活動成果を発表し合う「プロジェクト実績発表会」を開催しました。今後、農業機械研修も計画しています。

ほ場見学会の様子

女性農業者交流会を開催

令和2年12月9日、高萩市の花き生産農場にて、女性農業者と女性農業士が季節の花の寄せ植え講習会と情報交換会を行いました。

寄せ植え講習会では、ハボタンやパンジーなどの花苗の中から、各自が花を選び、講師の指導のもと植え付けました。

情報交換会では、寄せ植え講師の花き生産者から農業経営の概況について話を伺った後に、後継者育成や品目の転換等について、活発に意見交換され、充実した情報交換会となりました。

今後も、普及センターでは随時個別巡回や交流会の開催等を通して、女性農業者の意見集約や農業に関わる情報提供等による支援を行っていきます。